

第42回 うつのみやこども賞

令和7(2025)年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『アリーチェと魔法の書』

長谷川 まりる／作 松井 あやか/絵(静山社)



令和7年11月2日

～読んだ本の感想より～

- 古いおきてに悩まされている人たち、古くても良いと思っている人たち、その人々の考えを変える、すてきな話だったと思います。
- 最後に「私に魔法を教えてくれない?」で締めくくるのがいいと思った。命はみな平等ということがもっと分かった気がした。
- とてもおもしろかった。特に、テトラが〈本〉を燃やしてしまった所は迫力があり、とても印象に残った。
- あの時アリーチェが言った「私に魔法を教えてくれない?」の言葉は、最後にまた少し違う形で言って良かったです。
- 物語自体は長いけれど、そのかわり自分たちが物語の中に入っているような感じがした。
- アリーチェが責任感を持ち、守り手をやる所がとてもかっこよかったです。私もアリーチェも様な人になりたいと思いました。
- この本の魔法の関係性や設定がおもしろかった。

『Q世代塾の問題児たち』

石川 宏千花／作 みすず／絵(理論社)

- 社会問題や答えのない問い合わせ、参加者たちと向き合うQ世代塾がとても魅力的だった。
- 疑問を持つことやその答えを自分なりに考えることは、とても大切だと思った。
- Q世代塾での先入観の授業で、自分も先入観で勝手に物事を決めつけてしまうことがあったりしているかもしれないと思づかされた。
- 人は見かけによらないな、と思った。
- おじいちゃんは…とか、おばあちゃんは…とか、先入観があったけれど、それは違うと実感できた。
- わたし(さるそら)がQ世代塾に通い、いろいろな物事の考え方方が変わっていくのが面白い。

『あたたかな手 なのはな整骨院物語』

濱野 京子／作(偕成社)

- いろいろな人がたくさん事情を持っていて、肩こりや猫背などは、気持ちが不安な時に起こるということを知らなかった。
- 「あたたかい手」を持っている春哉が患者さんの体の痛みだけでなく、心にも寄りそっているところがよかったです。
- 色々な関係が「なのはな整骨院」に集まっているなと思った。
- とても心がほっとするお仕事を自分なりに探せて楽しんでいた主人公のように、私も自分がやりたい仕事を見つけていきたいと思いました。
- とても温かい気持ちになる話で、自分も将来こんな風になりたいなど夢が広がる物語だった。
- この町の人たちにこの整骨院は愛されていることがよく分かった。こんな先生にみてもらいたい!

『ぼくに友だちがいない理由』

小林 史人／作 k i g i m u r a／絵(さ・え・ら書房)

- 育人やマコちゃん、さとるの3人が振り回される問題を通して成長していくところがよかったです。
- 名前からして思ったよりも激しかったですが、主人公と自分が似ているような気がして、おもしろかったです。
- 育人とさとるの関係はあまりないもので、おもしろかったです。